

東北支援事業 活動報告

作成日：2016年9月1日

作成者：大阪西 RAC 高士

■ 支援概要・目的

2016年8月27日、28日に仙台青葉ロータリークラブの方々のご協力のもと、宮城県牡鹿郡女川町にて、2520地区（宮城・岩手）・2530地区（福島）ローターアクト合同での支援活動を実施しました。当地区からの参加者は10名、全体で30名前後のRC、RACが参加しました。

活動拠点は「御前浜ロータリーハウス」という施設です。この施設は、仙台青葉ロータリークラブが主体となって、東日本大震災の津波によって被災した「女川町立女川第三小学校御前分校」を避難施設として改修した建物です。そこに住んでいらっしゃる相原夫妻に向けた支援活動と、現地ローターアクトとの情報交換・交流を通じて、東北の現状を知り、私たちにできる現在求められている支援活動を考え、今後の奉仕事業へ活かすことを目的として、実施しました。

■ 事業内容

8月27日（1日目）

- ◇「石巻私立大川小学校」視察 津波によって、学校管理下で、唯一児童の死者が出た小学校を視察し、慰霊碑に献花をしてきました。
- ◇刺し網漁（雨天のため中止） 相原主人は漁師であり、震災前までは毎日漁を行っていましたが、津波被害やご高齢であることが理由で、現在は漁をしておらず、元気づけるために実施を予定していました。
- ◇モザイクアート製作 元気づけるもう一つのプログラムとして、他地区 RAC と共に、相原主人の漁船をモチーフに作品を作って、贈呈しました。
- ◇夕食づくり 相原夫人と一緒に、現地の鶏を捌いたり、大阪名物のたこ焼きを作りました。

8月28日（2日目）

- ◇ロータリーハウス等の清掃 教室内の清掃、屋外の除草、近隣にある熊野神社の除草を実施しました。
- ◇相原夫妻による卓話 ロータリーハウスに住まわれた経緯や、当時の記憶についてお話していただきました。
- ◇語り部体験 女川駅前に震災後に作られた商業エリア内にある「女川町まちなか交流館」にて、被災状況や、女川町の復興についてお話していただきました。

■ 事業を通じて感じたこと、得られたこと

今回の東北支援では、支援よりも学びが多かったように思います。被災した建物に宿泊したことや、被災された方のお話を聴くということは大変貴重な体験でした。災害支援に限らず、奉仕活動の輪を広げていくためには、まず誰が支援を必要としているかを知ろうという姿勢を持つこと。そして、自分ができることを良く考え、相談、計画した上で、実施しなければならないことを改めて学びました。

■ 上記を今後の活動にどう活かしたいか

今後、支援活動を実施できる機会があった際には、現地の方々との交流をもっと積極的にし、より相手の立場に立ったプログラムの実施を心掛けたいと思います。また、自クラブの活動において、新たな奉仕プロジェクトを提案するために、自分にできる取り組みはないかを日々考えると共に、情報収集していきます。

■ 活動写真



↑ 石巻市立大川小学校跡地 当時の状況が書かれた資料



↑ 女川町立女川第三小学校御前分校 (現ロータリーハウス)



↑ モザイクアート製作の様子



↑ 相原夫人と鶏を捌く RAC メンバー



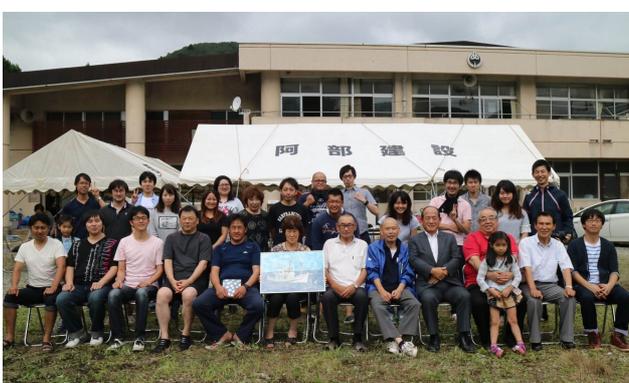
↑ ロータリーハウス清掃の様子



↑ モザイクアートと相原夫妻、仙台青葉 RC 大江さん



↑ 相原夫妻 卓話の様子



↑ 集合写真